

■県立高等学校将来構想審議会 中間案（素案）における対応状況

箇所	骨子案	主な発言内容	発言者 (敬諸略)	対応方針	修正対応等				中間案反映箇所
					骨子	中間案	実施計画	その他	
第2章	2 高校教育を取り巻く現状と課題	第2章「高校を取り巻く現状と課題」の「県立高校の現状と課題」におきましても、「グローバル化」という視点があると良いのではないかと。	伊藤(宣)	・中間案において教育的ニーズの一つとしてグローバル化という視点の記載について対応する。		●			第2章2（2）県立高校の現状と課題 ○ 次に掲げる課題に対応しながら、全ての生徒が将来に希望を持ち、自らの可能性を最大限に発揮できる教育環境の実現が求められています。 ウ グローバル化への対応 ○ グローバル化に伴い、自国の文化への理解を深めることをベースとして、異なる文化や価値観を理解しながら、国際社会で活躍できる資質・能力を育成することも重要な課題となっています。
第3章	1 基本理念 ・学校に生徒を合わせるのではなく、興味・関心や希望に応じて生徒が学びを選べる、生徒を主語にした高校教育を実現する。	「学校に生徒を合わせるのではなく、興味関心や希望に応じて生徒が学びを選べる」という表現があります。この「選べる」に関しまして、進路先の話であるならば選べると思いますが、その一人一人の生徒の学びという観点からした時には、何かすてにあるものを選ぶというニュアンスよりは、それぞれが個性的に学びを進めていくようなニュアンスがあった方が良いのではないかと思いますので、このままでも結構ですが、例えば「興味関心や希望に応じて生徒が学んでいける」、もしくは「学びを進めている」などの表現も良いのではないかと思います。	後藤	・「生徒が学びを選べる」という中には、ご指摘のとおりそれぞれが個性的に学びを進めていくという内容も含まれており、詳細については中間案で記載していきたい。 ・既に用意された以外のものも対応できるようなニュアンスを盛り込んでいく。		●			第3章1 基本理念 （2）生徒を主語にした高校教育の実現 ○ 「学ぶ主体」である生徒の視点から、教育課程や授業の在り方、学校運営等についてとらえ直し、生徒が学びたいと思える授業や教育活動を推進していきます。 ○ その実現に向け、教育を学校の中だけの閉ざされた空間でとらえるのではなく、デジタル技術等を有効に活用し、学校、学科の枠を越えた連携や、地域、市町村、研究機関、海外の学校などの外部機関など、多様な外部資源と連携した教育環境が重要です。 ○ 生徒が画一的な教育課程や教育環境に合わせるのではなく、一人一人が、自分自身のライフスタイルや興味・関心、将来の目標や進路希望に基づき、自らの学びを主体的に選択し、設計できる教育環境を整備します。
第3章	1 基本理念 ・学校に生徒を合わせるのではなく、興味・関心や希望に応じて生徒が学びを選べる、生徒を主語にした高校教育を実現する。	「興味関心や希望に応じ学びを選べる」という部分は、私もぜひ再検討していただきたい表現だと存じました。興味関心あるいは夢というものをある程度、あるいはかなりはっきり持って進路を選択し高校に入ってくる生徒もいる中で、そうではない生徒、高校で迷いながら見つける生徒も当然いる。ここについては、興味関心や夢、希望などについて、それにマッチする学びを選択するだけでなく、そうした夢のようなものを見いだしたり、学びの中で作り出したりして、それを追求していくような、そういうプロセスを提供できる学校というような読み取りができる表現にしてみらえとよい。	太田	・部会の中で、「ニーズを引き出す」ことが重要であると意見をいただいたことから、第1章1策定の趣旨に「可能性を広げるための学習環境の整備」として入れている。いただいた意見の内容については、ニーズを引き出すという文脈で中間案に書き込んでいきたい。		●			第3章1 基本理念 （2）生徒を主語にした高校教育の実現 ○ 「学ぶ主体」である生徒の視点から、教育課程や授業の在り方、学校運営等についてとらえ直し、生徒が学びたいと思える授業や教育活動を推進していきます。 ○ その実現に向け、教育を学校の中だけの閉ざされた空間でとらえるのではなく、デジタル技術等を有効に活用し、学校、学科の枠を越えた連携や、地域、市町村、研究機関、海外の学校などの外部機関など、多様な外部資源と連携した教育環境が重要です。 ○ 生徒が画一的な教育課程や教育環境に合わせるのではなく、一人一人が、自分自身のライフスタイルや興味・関心、将来の目標や進路希望に基づき、自らの学びを主体的に選択し、設計できる教育環境を整備します。
第3章	1 基本理念 ・この実現に向け、少子化の急速な進行等の社会経済環境の変化を直視しながらも、魅力的な教育環境を整えるため単なる数合わせではなく、県立高校の創造的再構築を行う。	「県立高校の創造的再構築」という中で「創造的」という言葉について、基本方針の中で読み取れないところある。この「創造的再構築」はどの程度の、どのような方針を示されているのか、その辺りを伺いたい。	伊藤(秀)	・これまでの単なる学級減にとどまらず、地域にどのような学びを残していくかという観点から考えていくということ、スタンドアローンで一つの学校が単独でフルセットで資源を持ち、高校教育を提供するのではなく、複数の学校や地域社会とも連携してリソースを持ち合って提供していくという意味。 ・基本方針を実現するために、創造的再構築となる学校配置を行うものである。中間案において、イメージ図等を用いてわかりやすく説明する。		●			・第3章に創造的再構築後のイメージ図を追加
第3章	1 基本理念 ・この実現に向け、少子化の急速な進行等の社会経済環境の変化を直視しながらも、魅力的な教育環境を整えるため単なる数合わせではなく、県立高校の創造的再構築を行う。	「県立高校の創造的再構築」という言葉は、一体何を意味するのか。文字的にはとても良いのですが、内容がよく分からない、というところはもう少し具体的に落とし込んで良いのではないかと。	山田	・中間案において具体的な内容について表現する。 ・基本方針を実現するために、創造的再構築となる学校配置を行うものである。中間案において、イメージ図等を用いてわかりやすく説明する。		●			・第3章に創造的再構築後のイメージ図を追加
第3章	2 基本方針 ・地域資源を活用するなどして専門性・応用力を高め、より実践的に学べる環境を整備する。 3 学校配置の考え方 ・専門学科は、複数学科の統合だけでなく、学校間・学科間の連携に必要な教育を提供するなどして、人口減少が続く中でも多様な教育の提供を行う。	第3章の基本方針の中で地域資源を活用するという箇所があり、次の学校配置・学校規模の考え方で「学科連携による」という項目がある。宮城県には魅力ある企業が多いので、この「地域資源」という箇所に、例えば「学校、学科間の連携、地域資源、地域企業」という形で入れることも考えるべきではないかと。	畑山	・いただいた意見を踏まえ、中間案では表現を留意する。		●			第3章2 基本方針 （5）地域資源を活用するなどして専門性・応用力を高め、より実践的に学べる環境を整備します。 ○ 地域の企業や関係団体、大学、市町村等と連携しながら、外部人材や施設・設備を活用したフィールドワークや地域課題をテーマにした探究学習など、地域に根ざした特色ある資源や産業、文化などを教育活動に取り入れることで、専門性や応用力を高める実践的な教育環境を整え、知識の習得にとどまらない、実社会と結び付いた学習機会を創出します。
第3章	3 学校配置の考え方 ・専門学科は、複数学科の統合だけでなく、学校間・学科間の連携に必要な教育を提供するなどして、人口減少が続く中でも多様な教育の提供を行う。	専門学科は複数学科の統合だけでなく、学科間の連携というところで、企業などを入れる必要があり、専門学科でもやはり難関大学等に進学する生徒もたくさんいるので、そうしたところが少し見逃されている。また、即戦力としての地域の「人材」というところも専門学科にはやはり必要なところだと存じるので、その辺りもう少し丁寧に扱うべきではないかと。	畑山	・いただいた意見を踏まえ、中間案では表現を留意する。		●			第3章3 学校配置の考え方 （3）専門学科における学科横断的な学びの推進 ○ 専門学科については、複数学科を統合した学びだけでなく、学科間の知識や技術を横断的に学べる学習機会を設けることで、生徒数の減少が続く中でも、生徒の興味・関心や進路に応じた柔軟な学びを保障します。 ○ また、本県の基幹産業である農業、工業や水産に関わる基幹校においては、他の高校や他の学科、企業、大学との連携やオンラインの効果的な活用などにより、先端技術を含むこれからの専門学科に必要な教育を提供します。 第4章1 県立高校教育の質の向上の方向性 （2）確かな学力の育成 ○ 急速に進展するデジタル社会や高度化する産業ニーズに対応できる科学技術分野の人材や地域の産業の担い手の育成を目指した、これからの時代にふさわしい学びを教育課程に取り入れていきます。また、高度な技術や実践的な知識・技能の学びの機会として企業や大学等と連携した学びの環境を整えます。

■県立高等学校将来構想審議会 中間案（素案）における対応状況

箇所	骨子案	主な発言内容	発言者 (敬語略)	対応方針	修正対応等				中間案反映箇所
					骨子	中間案	実施計画	その他	
第4章	1 県立高校教育の質の向上の方向性 (1) 確かな学力の育成と安全・安心な教育環境の充実 ・生徒一人一人が自らの可能性を最大限伸ばせるよう、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るとともに、生徒の学力に応じた学習環境を整備する。	「基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るとともに、生徒の学力に応じた学習環境を整備する」となると、テスト一辺倒の、順番がつけられた学力ということに強調されるような気がする。学力といった場合、思考力・判断力・表現力であるとか、コミュニケーションを含む多様な人間性であるとかいうのも含んでの学力ということになるので、いわゆる受験学力だけの、ペーパーだけのというような強調のされ方をすると、多様な学びをと言っているときに、カバーしきれなくなるので、この項目1番目の表現をもう少し工夫していただければと思う。	穴戸	・資料2に記載したように、探究的な学びなどを含むものを想定しており、テスト一辺倒のものを意味したものではないが、中間案において誤解の無いよう対応する。		●			第4章1(2) 確かな学力の育成 ○ 生徒一人一人が自らの可能性を最大限伸ばせるよう、教科ごとの基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得のほか、思考力・判断力・表現力等の多面的な学力の育成を図ります。また、生徒の学力や学習進度に応じた学習環境を整えることで、生徒一人一人の学びをきめ細かに支援します。
第4章	1 県立高校教育の質の向上の方向性 (1) 確かな学力の育成と安全・安心な教育環境の充実 ・変化する社会経済環境の中でも生徒が安全・安心な環境で学ぶことができるよう、生徒のニーズに即した教育環境の充実を図る。	一番下の項目で「変化する社会経済環境の中でも生徒が安全安心な環境で学ぶことができるよう生徒のニーズに即した教育環境の充実を図る」というところは、盛り込みすぎているのではないかと感じがして、結局何を言いたいのかが分からなくなってしまっているがあるので、表現を検討していただければと思う。	穴戸	・いただいた意見を踏まえ、骨子案を修正する。 ・中間案において表現を工夫する。 修正案：第4章1(1) ・変化する社会経済環境の中でも生徒が安全・安心な環境で学ぶことができるよう、生徒のニーズに即した教育環境の充実を図る。	●	●			第4章1(2) 確かな学力の育成 ○ デジタル技術の一層の進展やオンライン授業の導入など、新たな取組が導入される学習環境においても、安心して学習が行える体制を整えるとともに、災害や感染症などのリスクにも対応し、変化する社会経済環境の中でも生徒が安全・安心な環境で学ぶことができるよう、教育環境の充実を図ります。
第4章	1 県立高校教育の質の向上の方向性 (2) 多様なニーズに対応した教育の推進 2 時代のニーズに対応した高校の魅力化	第4章1(2)「多様なニーズに対応した教育の推進」とあり、2「時代のニーズに対応した高校の魅力化」とある。「多様なニーズ」は「時代のニーズ」ではないのか、逆に「時代のニーズ」は「多様なニーズ」ではないのかと、「ニーズ」という言葉に引っ張られて、ごちゃごちゃに見えてしまう。特に第4章に入ってから「ニーズ」という言葉がたくさん出てきており、その言葉に引っ張られて少しイメージが湧きづらいつころがある。他の文面の中にも「ニーズ」という言葉がかなり出てきますので、それで少し混乱するところがあるため、ご検討いただければ。	樽野	・ニーズについては、中間案において文言の意味について誤解が生じないように記載していく。		●			第4章1(3) 多様なニーズに対応した教育の推進 ○ 生徒一人一人の学習状況や興味・関心、進路希望などの教育的ニーズを的確に把握し、それに応じた最適な学習環境を整備するため、個々の能力や特性に対応した教育課程を編成します。これにより、実社会で必要な知識や技能の習得を図り、将来の社会的自立に必要な判断力・表現力・協働能力などの資質・能力を育みます。 ○ 生徒が持つ個性や能力などの様々な背景を踏まえ、それぞれに応じた学習方法の提供など、互いを尊重し協働できる環境を整備し、共生社会の実現に向けた教育活動を推進します。 第4章2 時代のニーズに対応した高校の魅力化 ○ 本県の高校教育においては、第2章で確認したような現状と課題があることを踏まえ、オンライン授業の活用や協働学習体制（ピアグループ）の形成など、生徒同士が切磋琢磨できる学習環境や、大学や企業との連携などによる高度な専門知識・技術を学べる環境の整備など、多様な学習ニーズに対応した教育環境を整備する必要があります。
第1章 第4章	1 策定の趣旨 ・生徒一人一人の個性や背景を尊重した教育を通じたウェルビーイングの実現 1 県立高校教育の質の向上の方向性 (1) 確かな学力の育成と安全・安心な教育環境の充実 ・STEAM教育等の教科等横断的な学習の推進により、様々な情報を活用しながら、課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていく資質・能力を育成する。	やはりSteam教育のアートもそうだし、ウェルビーイングを考えた時に、国際社会の一員として、まずは自国の文化を中学・高校と連携しながら知っていくということが教育のベースになるのかなと考えますので、文言として「自国の地域文化の理解を基礎に他国の文化を尊重し」のように、少し加えていただくと嬉しい	関	・現在、総合的な探究の時間でも地域資源を題材にして学習しており、自国の地域文化に理解を深めているという状況もあるので、そうした点を意識しながら中間案に書き込んでいきたい。		●			第2章2(2) 県立高校の現状と課題 ○ 次に掲げる課題に対応しながら、全ての生徒が将来に希望を持ち、自らの可能性を最大限に発揮できる教育環境の実現が求められています。 ウ グローバル化への対応 ○ グローバル化に伴い、自国の文化への理解を深めることをベースとして、異なる文化や価値観を理解しながら、国際社会で活躍できる資質・能力を育成することも重要な課題となっています。 第4章1(2) 確かな学力の育成 ○ グローバル化の進展により、経済や情報、文化の面で世界との関りが密接になる中、県内にも多数の外国人労働者が在住し、他国の文化的背景を持つ人材と協働していくことが求められています。自国の文化への理解を深めながら、国際交流を通じて多様な価値観や文化的背景を理解し、外国人との協働に必要な知識や技能を有した、国際社会で活躍する人材を育成します。
概要版	1 県立高校教育の質の向上の方向性 (4) 地域と学校の連携・協働体制の推進 ・全国募集の実施も含め、地域と連携しながら、多様な学習環境や学習機会を設けることなどを通じて、魅力ある学校づくりを推進する。	資料1「地域と学校連携共同体制の推進」に「全国募集」と書いてあるのが唐突すぎるかなと思う。全国募集も売りの一つだが、これだけ見ると、地域との連携とどう関わりがあるのかという感じに見られますので、ここを少し変えるというか、検討していただけると良いのではないかと。	内海	・全国募集では地域との連携協働が一層必要になるため、特に記載したもの。 ・ご指摘を踏まえ、概要版の表現を修正する。		●		●	第4章1(5) 地域と学校の連携・協働体制の推進 ○ 全国募集や特色ある教育プログラムの実施など、市町村や地域の関係団体と連携することで、地域の特性となる地域資源を活用した多様な学習環境や学習機会を設け、魅力ある学校づくりを推進し、生徒の興味・関心や進路希望等に応じた学びを提供します。
第4章	2 時代のニーズに対応した高校の魅力化 (2) 専門学科（総合学科含む） ・理数系学科と工業系学科の併置などによる、科学技術者のスペシャリストの育成を目指す科学技術高校の設置の検討 ①農業 ・スマート農業への対応など情報・デジタル技術などを活用した学びを充実させる。 ・地域の特色を活かしたカリキュラムを設定する。	農業の部分でさらに全国レベルで何か特化したような技術やノウハウを、関連団体や関連企業の皆様と綿密に連携を取りながら、農業分野で特化するような学科のようなものも入れていただければ面白い。平均的に無難なものを取り入れると、魅力のない学科になってしまうことが想定される。個人的にナノテラスの方に色々世話になっており、県も多額な出資をされているということも聞いている。県立高校のそうした分野、食や農といったところにも非常に興味を持たれているというお話も聞いているため、この構想案の方にナノテラスという言葉を使って良いかわかりませんが、大学というよりもインパクトがあって、子供たちも非常に興味を持って見るのではないかとと思うので、考慮していただきたい。	伊藤(秀)	・農業については、科学技術高校を設置する予定であることから、具体の実行段階では、ご指摘いただいたような生徒が興味を持つようなものになるようにしていきたい。 ・大学や民間との連携の中にナノテラスは想定され、ご指摘のとおり、ナノテラスは他県にない宮城県の特徴であるため、中間案で工夫をしていきたい。		●			第4章2(2) 専門学科系の学び ① 本県の基幹産業である農業、工業や水産に関わる専門高校の基幹校では、大学や企業、研究施設との連携により、先端技術に関する学びを充実させ、オンライン等を効果的に活用し、その成果を学校間で共有します。
第4章	2 時代のニーズに対応した高校の魅力化 (2) 専門学科（総合学科含む） ⑥体育 ・スポーツの実践のほかに、スポーツ栄養やトレーニングなどの幅広い分野に関する知識の習得も図る。	スポーツ実践や栄養、トレーニングといった限定的な記述に留まっており、体育がスポーツと解釈されかねないという懸念を持っている。体育の持つ多面的な教育的価値が十分に反映されていない。体育はトップアスリートの育成に留まるものではなく、生涯にわたる心身の発達、健康、ウェルビーイングに深く関わる分野。この骨子案もそうだが、デジタル化やSNSの影響によって心の育ちが見えにくくなっている現代の子供たちにとって、体を通じた心と体の統合的な学びは必要不可欠ではないか。教育DXの進展がたくさん取り上げられているが、学びが知的に偏るのではないかと懸念している。体育などの分野では、共感性、想像力、感性、そして関係性といった知的な学びだけでは賄えないような情操や感性の教育を担う重要な分野だと考えている。将来の社会を担う専門職の育成にもつながるような価値について、構想の中でも取り扱っていただきたい。	菊地	・スポーツやトレーニングのみを意味するものではなく、関連する学びについても含むものである。中間案において誤解のないように記載する。		●			第4章2(2) 専門学科系の学び <その他の分野の学び> ア 体育系の学び ○ 実技によるスポーツの実践だけでなく、スポーツ栄養やトレーニング、健康増進など、幅広い分野の知識・技能を総合的に身に付け、社会の多様な場面で専門性を発揮できる人材育成を目指す。

■県立高等学校将来構想審議会 中間案（素案）における対応状況

箇所	骨子案	主な発言内容	発言者 (敬語略)	対応方針	修正対応等				中間案反映箇所
					骨子	中間案	実施計画	その他	
第4章	3 多様な学びの在り方 (2) 定時制・通信制の在り方 ・ニーズを踏まえ、通信制高校（課程）の機能強化や増設を行う。	「通信制機能の強化や増設を行う」のこの「機能強化」という部分が、多分このフレーズだけ読むとどういことか全く分からない。これまでの議論の中では、例えば通信制高校のスクーリングの協力やサテライト的なものを増やしていくという形で補強していこう、といった具体的な話はあったが、通信制の機能が強化されているという風には少し言いにくいと存じました。このフレーズで何が表されているか、もし意図していることと違って捉えられるようなことだとまずいので、ご指摘させていただく。	太田	・ご指摘のとおりスクーリングの協力やサテライトを増やしていくといったことを想定して通信制機能の強化としていたが、中間案においては誤解のないように記載していく。		●			第4章3（2）定時制・通信制の在り方 ○ 通信制高校（課程）のニーズを踏まえながら、スクーリング拠点や通信制高校の増設を行うことで、場所や時間にとらわれず学べる学習機会の充実を図り、全ての生徒が安心して学びを継続できる環境を整備します。
第4章	4 小規模校の学びの在り方 (2) 地域連携や学校間連携の取組 ・小規模校の魅力化に向け、地域と密接に関わる探究的な学びなど、小規模校単独ではなしえない教育活動の機会を確保した学校づくりを推進する。	地域連携について、何をどうやるのかはまだここだけではよく分からない。ただ、少子化が進んでいき、学校の学級数も減っていくというのは、高校だけの話ではなく、小中学校も同様で、特に県の中心部ではない地域は皆そのような状況にこれからなっていく。そのため、地域との連携と同時に、各市町村の小中学校、あるいは各市町村との連携で、例えば小中学校も減っていき、高校も減っていった時に、どこかで学校統合する、小中高で統合するとか、地域にそうした学校をどうやって残すかということもやはり必要ではないか。そのため、ここには「地域と密接に」とか「地域間連携」とありますが、市町村も含める意味合いがもしもせんけれども、そうしたことも考えないと、将来的に地域の教育がどのような形になっていくかを想像しながら作っておくべきだと感じる。	山田	・いただいた意見を踏まえ、骨子案を修正する。 ・市町村との連携・協働は市町村の意向や状況を踏まえて進めていくことになるので、ご指摘の形態も想定しながら配置について検討していく。 修正案：第4章4（2） ・小規模校の魅力化に向け、地域と密接に関わる探究的な学びなど、小規模校単独ではなしえない教育活動の機会を確保により魅力化を図るとともに、市町村と連携・協働した学校づくりを推進する。	●	●			第4章4（2）地域連携や学校間連携の取組 ○ 小規模校単独では実施が難しい教育活動の機会の確保として、地域資源や地域課題に着目した、地域と密接に関わる探究的な学習機会の創出を通して学校の特色化や魅力化を図り、市町村や地域の関係団体等と連携・協働した学校づくりを推進します。
第5章	1 家庭・地域・学校の協働の必要性と役割 ・将来構想の推進に向けコミュニティ・スクールの仕組みを活用し、家庭・地域・学校が役割分担をしながら協働する。 ・市町村との連携・協働を一層推進するとともに、企業や関係団体等との連携体制等を構築する。	地域に子供たちが足を運んでおり、地域との関連性が高い子供たちは非常に元気で、挨拶もしっかりできる。高校生、そして大学生、社会人になっていく過程の中で、やはりそうした地域連携というところを引き続き続けていけるというところが大きいのではないかと考えている。そのため、この第5章の「市町村との連携協同を一層推進するとともに」という箇所を、もう少し、心の部分というところで、少し大事にしたいだければ。地域連携、市町村、企業との連携というのは本当に大事だと考えているので、もう少し強調していただければ。	畑山	・実践的な学びは重要だと考えていることから、中間案で書き込んでいきたい。		●			第5章1 学校・家庭・地域の協働の必要性 ○ 将来構想の推進に当たっては、コミュニティ・スクールの仕組みも積極的に活用するなどして、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を分担しながら連携・協働することが重要です。 ○ 地域の特色や多様な地域資源を教育に取り入れ、実社会と結び付いた学びを展開できるよう、企業や関係団体等との連携体制を構築します。 ○ 地域の実情や生徒の教育的ニーズに即した魅力ある高校教育の実現に向けて、市町村との連携・協働を一層推進します。
概要版		資料1の右上あたりに「知識を学びたい」「知識の習得」という風に、知識、知識、知識とありますが、知識のウエイトはどんどん下がってきておりますので、知識を含めた大きな意味でのスキル、知識・技能という言い方になるかもしれませんが、知識だけにするのはどうかと思う。	田端	・ここでの知識という言葉の中には技能という意味も含んで使用しており、中間案において誤解のないように記載する。		●			・「知識」だけでなく、「技能」「技術」についても記載した。